

研究主題「発話の意欲を高める指導の工夫

～子どもが楽しく取り組む英語活動を通して～

東京都教職員研修センター 研修部 専門研修課
小平市立小平第十五小学校 教諭 奥山文字

研究の背景とねらい

平成 13 年文部科学省より小学校英語活動実践の手引き(以下実践の手引きと記す)が示され、平成 15 年には「英語が使える日本人」の育成のための行動計画が策定された。英語活動を通し国際理解を深めるとともにコミュニケーション能力の育成が求められている。本研究では、自分の考えや思いを言葉にして言うことを発話ととらえ、発話の意欲を高めることが、コミュニケーション能力を育てる第一歩と考え研究主題を設定した。そして、子どもが楽しく取り組む英語活動を通し、発話の意欲を高める指導の工夫を探究することを研究のねらいとした。

研究の方法

基礎研究

- ・学習指導要領、小学校英語活動実践の手引き等の分析を行い、小学校における英語活動の位置付けを明らかにした。
- ・先行研究、文献研究を基に、発話の意欲を高める指導の在り方を探った。

実践研究

- ・教材開発
エリック・カール作「はらぺこあおむし」Philomel Books を題材に教材開発を行った。
- ・検証授業
第 4 学年「総合的な学習の時間」で英語活動を行った。

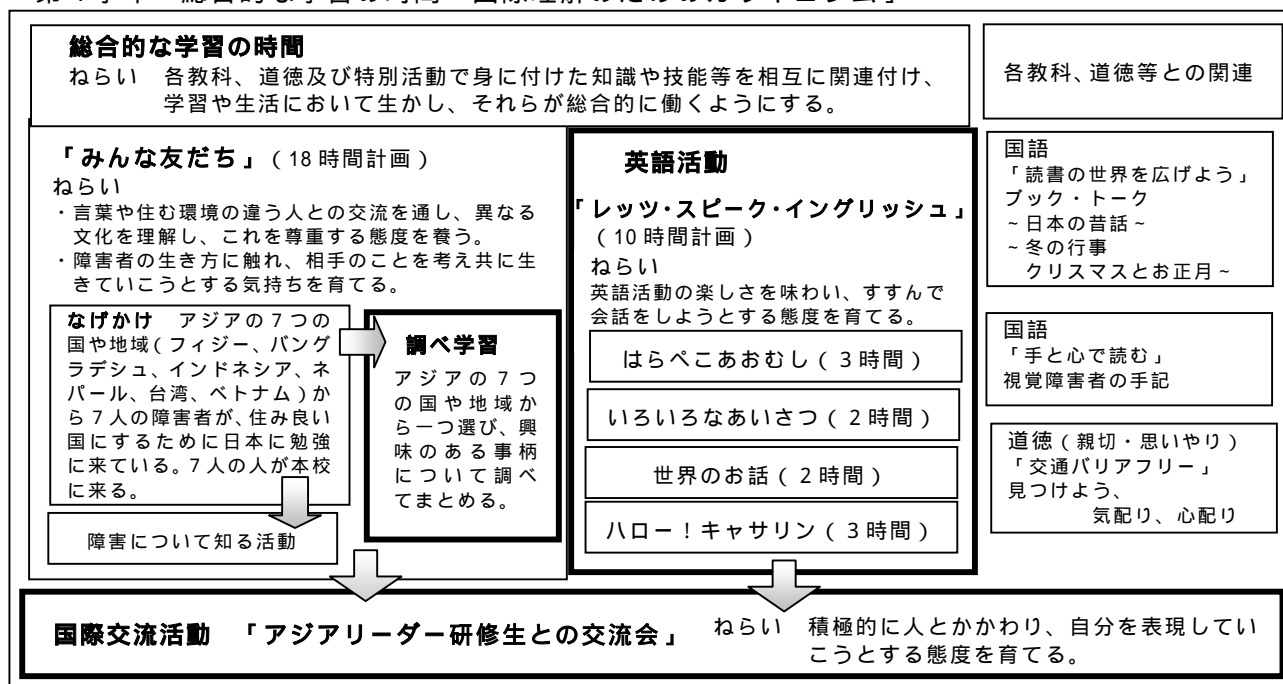
研究の結果と考察

1 基礎研究

(1) 小学校における英語活動の位置付け

実践の手引きには、総合的な学習の時間に国際理解を進める具体的な学習活動として「外国語会話」「国際交流活動」及び「調べ学習」が挙げられている。そしてこの3つの活動を相互に関連付けて行うことが望まれている。このことを踏まえ、各教科、道徳とも関連付けた「国際理解のためのカリキュラム」を開発し、実践した。

第 4 学年 総合的な学習の時間「国際理解のためのカリキュラム」

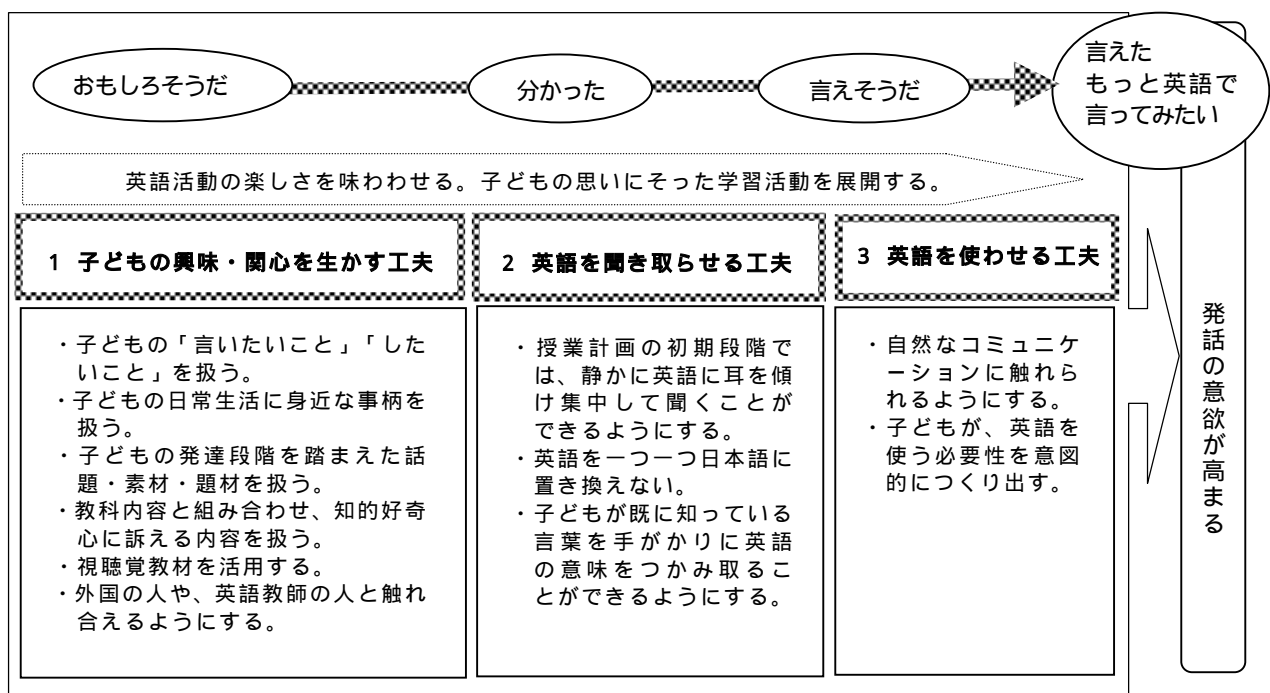


(2) 発話の意欲を高めるための指導の工夫

実践の手引きには、「児童期は新たな事象に関する興味・関心が強く、言語をはじめとして、異文化に関しても自然に受け入れられる時期にある。このような時期に英語に触れることは、コミュニケーション能力を育てる上でも、国際理解を深める上でも大変重要な体験になる。」とある。このことから、子どもがおもしろそうだと思うための「子どもの興味・関心を生かす工夫」が必要であると考えた。

また、言語形成期と重なる小学生時代は外国語の自然習得にも適した年齢であると言われている。「9歳を分水嶺として前半は話し言葉、後半は読みの形成期である。言語形成期の子どもは頭で理解してから英語を使うのではなく、英語を使いながら覚えていく。使いながらルールを見いだす力をもっている(2004 中島和子)。」このことから、言葉の意味をそのまま教えるのではなく、意味をつかみ取らせる工夫、つまり子どもが自分自身で英語の意味をつかみ取った、分かったと思える「英語を聞き取らせる工夫」と、子どもが英語で「言えそうだ」「言えた」と思える「英語を使わせる工夫」が必要であると考えた。これらの基礎研究から、発話の意欲を高めるための指導の工夫を下図のようにまとめた。

図1 発話の意欲を高める指導の工夫

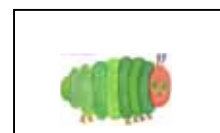


2 実践研究

(1) 教材開発

「はらぺこあおむし」を題材に選んだ理由

パネルシアターやビッグ・ブック
(自作教材)



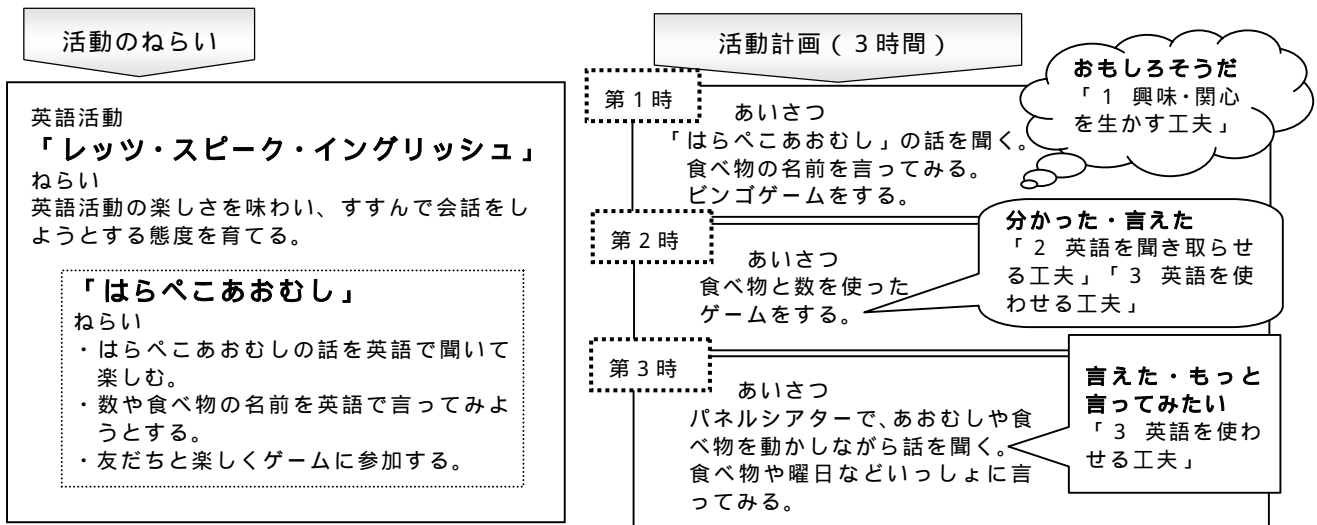
	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日や食べ物など身近な言語材料が含まれている。 ・絵が分かりやすく、言葉の意味をつかみ取りやすい。
--	---

絵カード

- ・子どもがよく知っている話で、卵から蝶になるまでの様子が分かり、興味をもてる内容である。
- ・絵本の読み聞かせをすることで、集中して英語を聞かせることができる。

(2) 検証授業

検証授業「はらぺこあおむし」における具体的な工夫



「はらぺこあおむし」1時間の授業の流れと具体的な工夫

具体的な工夫

「はらぺこあおむし」 第1時

ねらい 「はらぺこあおむし」の話を英語で聞いて楽しむ。食べ物の名前を聞いてその意味をつかみ、声に出して言うことができる。

題材 エリック・カール作「The very hungry caterpillar」

言語材料 apple pear plum strawberry orange

対象 学習開始期の第4学年

授業の形態 ティーム・ティーチング
(学級担任と英語教師と学生ボランティア)

「1 興味・関心を生かす工夫」

「はらぺこあおむし」は子どもがよく知っている話で、数や食べ物等身近な言語材料が含まれていてゲームが取り入れやすい。

パネルシアターやビッグ・ブックを使うことで、子どもが想像力を働かせて聞くことができる。

「3 英語を使わせる工夫」

英語教師やボランティアの人に参加してもらうことで、自然なコミュニケーションの場がとれる。

展開

ウォーム・アップ
・簡単なあいさつ Good morning.
・英語の歌 Hello, How are you?

「はらぺこあおむし」の読み聞かせ
・パネルシアターで読み聞かせをする。

やさしい質問と回答(クイズ)
・食べ物の絵カードを使ってクイズをする。
What did he eat on Monday?
・答えの食べ物の名前をみんなで繰り返し言う。

食べ物ビンゴゲーム
・英語教師が食べ物の名前を言って、ビンゴゲームをする。2回目は、グループごとにゲームを行う。食べ物の名前を一人が言ってビンゴゲームをする。

終わりのあいさつ・英語の歌 Good-bye song

「2 英語を聞き取らせる工夫」
あいさつの意味をつかみ取らせるよう、担任と英語教師とであいさつをする場面を子どもに見せた。

「3 英語を使わせる工夫」
ボランティアの人と一人一人あいさつを交わす場をつくった。

「2 英語を聞き取らせる工夫」
想像しながら聞き取ることができるよう、パネルシアターやビッグ・ブックを使った。

「2 英語を聞き取らせる工夫」
英語の意味をつかみ取ることができるよう、絵カードを使ってクイズを出した。

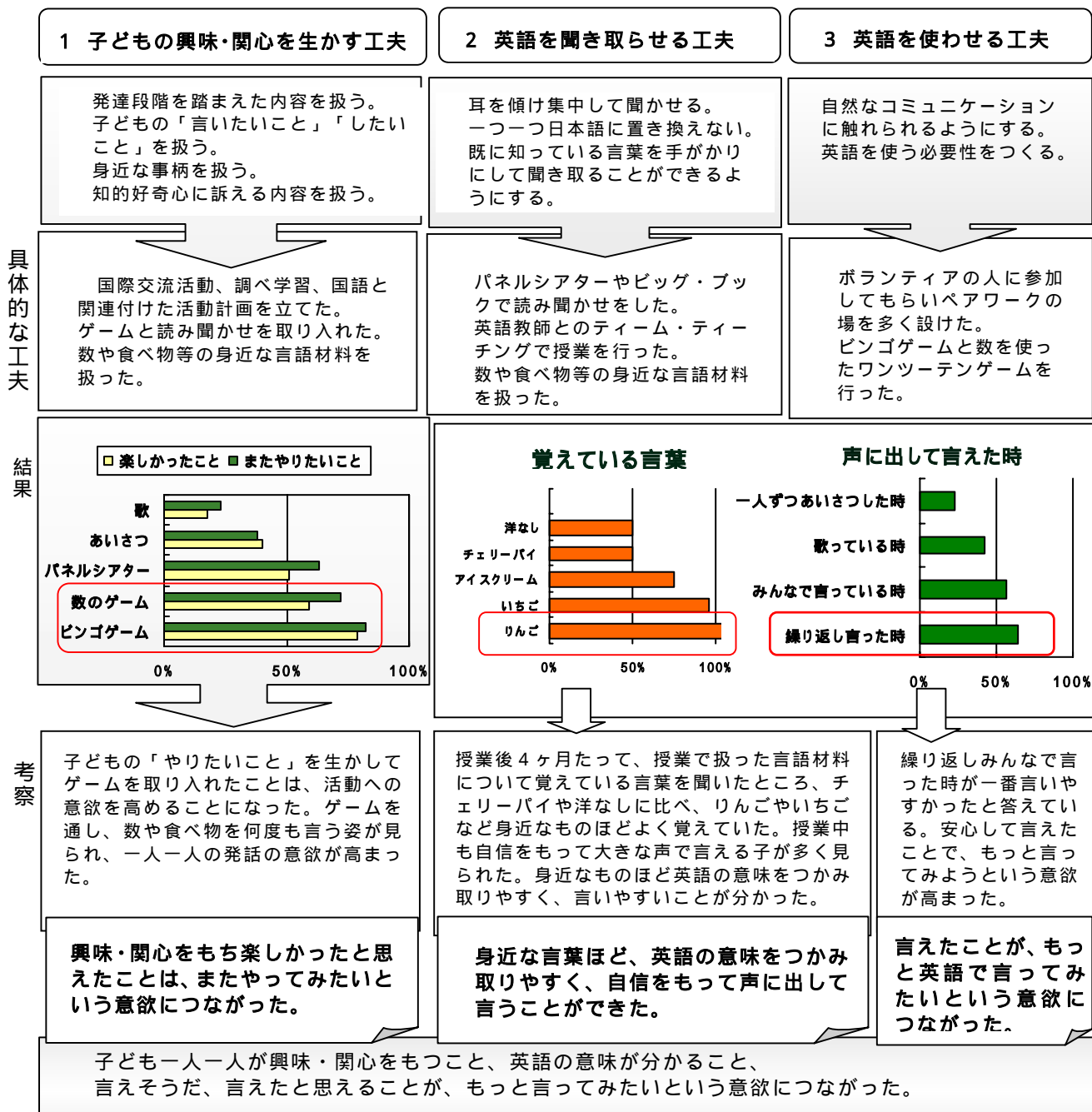
「3 英語を使わせる工夫」
クイズの答えをみんなで繰り返し言うようにした。

「1 興味・関心を生かす工夫」
子どもの「やってみよう」ゲームを取り入れた。

「3 英語を使わせる工夫」
食べ物の名前を必ず言うようにゲームのルールを決めて行った。

(3) 検証の結果と考察

検証の結果から、発話の意欲を高めた指導の工夫について考察する。



発話の意欲が高まった

子どもが楽しく英語活動に取り組むためには、担任が子どもの興味・関心を生かして活動計画を立てることや、英語教師が子どもの発音を正しい発音で言い返し励ますことが必要であることが分かった。検証の結果から、英語の意味が分かり、声に出して言う楽しさを味わうことで、すすんで会話をしてみたいというコミュニケーションへの積極性が養われると考える。

今後の課題

今回は第4学年について活動計画を立て検証授業に取り組み研究を進めた。今後、各学年の発達段階を考えたカリキュラム開発にも取り組み、教材開発及び授業実践を重ねていきたい。

参考文献 中島和子「小学校英語で伸ばすべき能力は何か」The English Teacher' Magazine May 2004 大修館書店